

単元名 図をつかって考えよう(3)

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 加法と減法の相互関係を使った立式の仕方を理解し、求大、求小の逆思考の場面で、適切に演算を決定することができる。
 (2) 問題場面を捉えてテープ図に表し、根拠をもって立式することができる。
 (3) 求大、求小の逆思考の問題に進んで取り組もうとする。

標準的な展開例

02040208_001

【準備等】テープ図

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 一方の数量と差を知って、小さい方を求める逆思考の問題について考える。[p. 58・p. 59]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、題意をつかむ。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★図をつかって、どちらが多いかを考えよう。 <p>○図をかいて、大小関係を説明し、立式する。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長いテープ図と短いテープ図を2本かかせて考えさせる。 ・まず、どちらが多いのかを考えさせる。 ・「～は・・・より多い(少ない)」という表現は、2量の大小(多少)の関係がつかみにくい児童もいるので、問題の中の数量関係をテープ図に表して考えさせる。 ・ペア活動をするとうい。 ・2本のテープ図を見て、問題に取り組ませる <p>【評】求小の逆思考の問題を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力で図がかけよう時間を十分に取、必要に応じて個別指導する。 ・適当な長さを指示して、左端をそろえてかかせる。全員同じ長さのテープ図をかかせるとうい。 ・かいたテープ図が、条件に合っているか確認させる。 ・大小関係を考えさせてから、テープ図をかかせる。 ・テープ図をかいてから、立式させる。 <p>【評】求大の逆思考の問題を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p>
<p>2 一方の数量と差を知って、大きい方を求める逆思考の問題について考える。[p. 60・p. 61]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「みんなで考える問題」を読み、題意をつかむ。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★図にかいて、どちらが長いかを考えよう。 <p>○図をかいて解き方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	

【備 考】

本単元は、大きい方の数量と差から小さい方の数量を求めたり(求小)、小さい方の数量と差から大きい方の数量を求めたり(求大)する学習である。ここでの学習は、問題の場面に逆思考の要素が含まれており、児童にとって考えにくいものである。そこで、問題に含まれる数量の関係を線分図(テープ図)に表すなど、視覚的に数量関係を捉えやすくした上で考えさせることが大切である。